資料４

令和５年３月23日
福　祉　保　健　局

「園芸植物等の栽培に関する実態調査及び食中毒に関する意識調査」について

園芸植物等による食中毒の予防に関して、今後の普及啓発の参考とするため、過去10年間に本人又は同居家族が自宅や家庭菜園等で植物を育てて食べた経験のある20歳以上の都民1,000人を対象に、インターネットを用いて、自宅や家庭菜園等における植物の栽培に関する実態と、食中毒に関する意識を調査しました。

このたび、結果をとりまとめましたのでお知らせします。

＜調査結果概要＞

◆食用の植物を植えたはずなので確認しないで食べるという人が約３割

食用かどうか判断に自信がない場合の対応方法は、「食用の植物を植えたはずなので、確認しないで食べる」が27.1%、「食用の植物かどうか、アプリやインターネットで確認して食べる」が23.0%、「食用の植物かどうか、図鑑等（電子版を含む。）で確認して食べる」が18.5%であった。一方、「食べない」も17.0%あった。

◆植物によっては死亡や重い症状になる場合があるということを知っていた人は約５割

植物による食中毒の知識については、「植物によっては、死亡や重い症状になる場合がある」を知っていたのは49.7%、「植物によっては、嘔吐などの症状がでる場合がある」を知っていたのは45.4%であった。

◆「ニラとスイセンの誤認」の認知度は約8割、その他は認知度が4割以下

また、有毒植物による食中毒の知識を持つ人のなかで最も認知度が高かった植物は、「スイセン（ニラと誤認）」で、83.0%であった。一方、「チョウセンアサガオ（ゴボウ、オクラ、ゴマと誤認）」は38.3%、それ以外の植物はさらに低い認知度であった。

参考：報告書本文は、東京都食品安全情報サイト「食品衛生の窓」からダウンロードできます。
URL　https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/hyouka/houkoku/index.html

問合せ先
東京都健康安全研究センター　企画調整部
健康危機管理情報課　食品医薬品情報担当

都民のみなさまへ

有毒植物による食中毒は、春に多く発生します。
食用と判断できない植物は食べないでください。

有毒植物や見分け方については、ぜひ次のサイトをご覧ください。

◆東京都の食品安全情報サイト「食品衛生の窓」「間違えやすい有毒植物」
https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/dokusou/index.html

◆東京都の食品安全情報サイト「食品衛生の窓」
「食中毒予防ポスター・リーフレット等」
https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/pamphlet2/pamphlet.html

◆東京動画
https://tokyodouga.jp/
「有毒植物」で検索

スイセン、バイケイソウ、イヌサフラン、チョウセンアサガオ、トリカブトなどの見分け方を、東京都薬用植物園の主任研究員が分かりやすく解説している動画です。アーカイブ配信期間は、令和 6 年 3 月 31 日までです。

リーフレット
「家庭園芸、ちょっとした注意で楽しく安全に」

東京動画の例

別紙

園芸植物等の栽培に関する実態調査及び食中毒に関する意識調査（概要）

１　調査目的等

（１）　目的

園芸植物等の誤食による食中毒予防等について的確な情報発信を行っていくため、自宅や家庭菜園等における植物の栽培に関する実態と、食中毒に関する意識を把握する。

（２）　調査対象者

過去 10 年間に本人又は同居家族が自宅や家庭菜園等で植物を育てて食べた経験のある 20 歳以上の都民

（３）　調査方法

調査会社によるインターネットアンケート

（４）　調査期間

令和 5 年 1 月 10 日（火曜日）から令和 5 年 1 月 13 日（金曜日）まで

（５）　回答者属性の設定

「20 代」「30 代」「40 代」「50 代」「60 代以上」の各年代の男女それぞれ 100 人ずつ、計 500 人ずつ設定し、合計 1,000 人とした。

２　調査結果概要

（１）回答率

回答者全数の回答が得られた（有効回答率 100.0%）

（２）食用の植物の栽培及び喫食の実態

ア　植物を育てた人（複数回答）

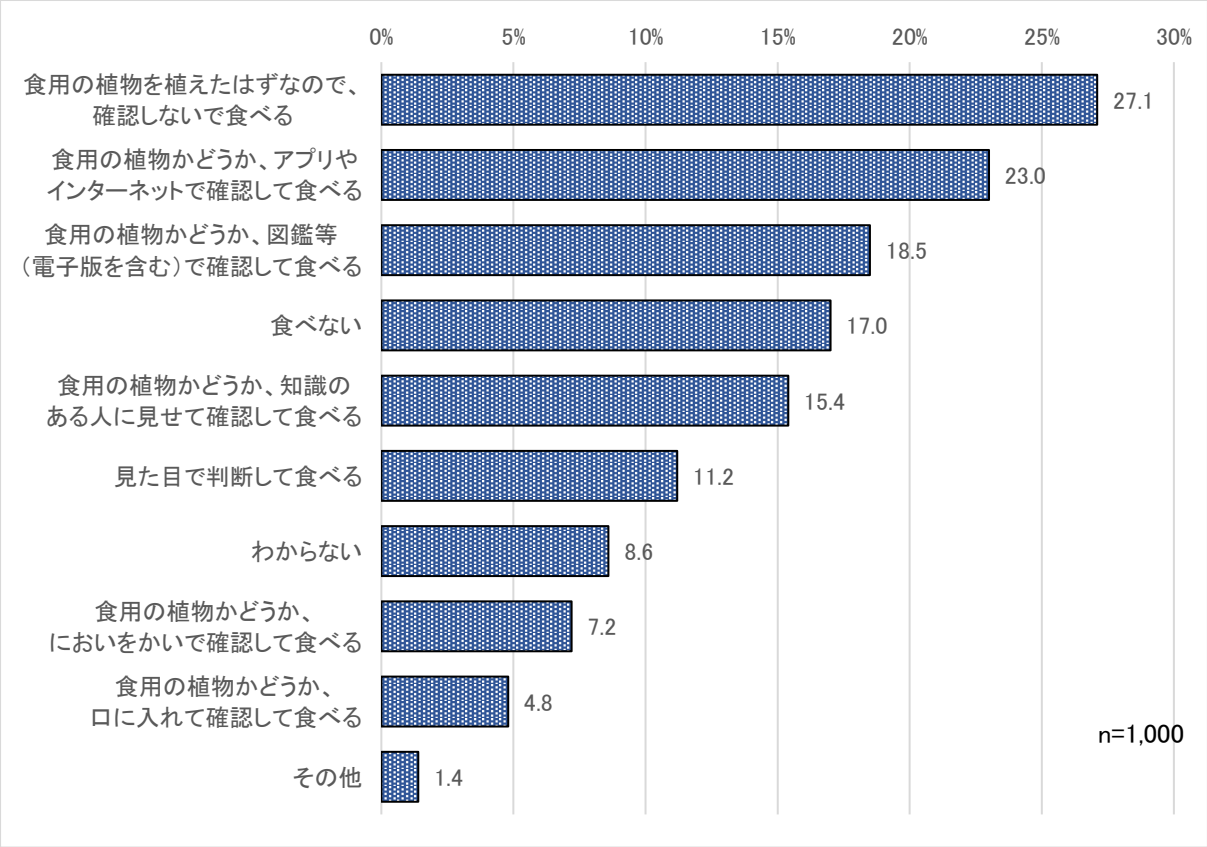
自宅や家庭菜園等で植物を育てている（育てた）のは、「自分」が 64.9%、「同居家族」が 54.0%であった。

イ　植物の栽培歴

植物の栽培歴については、「10 年以上」が 33.4%、「4～9 年」が 29.1%、「3 年以下」が 37.5%であった。

ウ　確認方法（複数回答）

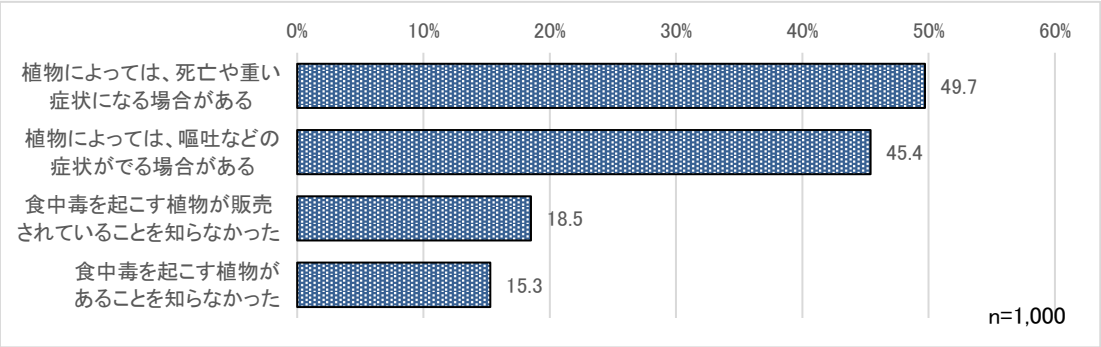
食用かどうか判断に自信がない場合の対応については、「食用の植物を植えたはずなので、確認しないで食べる」が 27.1%、「食用の植物かどうか、アプリやインターネットで確認して食べる」が 23.0%、「食用の植物かどうか、図鑑等（電子版を含む。）で確認して食べる」が 18.5%であった。一方、「食べない」も 17.0%あった。

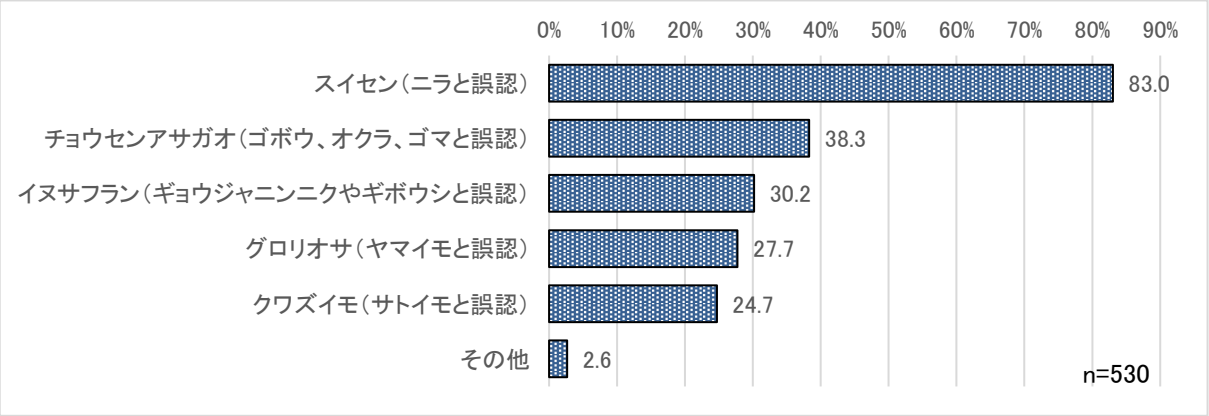


（３）園芸植物等に関連する食中毒の知識

ア　食中毒の知識（複数回答）

植物による食中毒の知識については、「植物によっては、死亡や重い症状になる場合がある」が 49.7%、「植物によっては、嘔吐などの症状がでる場合がある」が 45.4%であった。一方、「食中毒を起こす植物が販売されていることを知らなかった」は 18.5%、「食中毒を起こす植物があることを知らなかった」は 15.3%であった。



イ　知っている園芸用の有毒植物（複数回答

有毒植物による食中毒の知識を持つ人に、食中毒を起こす植物について知っている植物を聞いたところ、「スイセン（ニラと誤認）」が 83.0%であった。一方、「チョウセンアサガオ（ゴボウ、オクラ、ゴマと誤認）」は 38.3%であるほか、それ以外の植物は、さらに認知度が低かった。